



郡市長がさまざまな現場を訪問し  
市民の皆さまの活動の様子な  
どをお伝えします



▲太陽光パネルのリサイクル施設を視察しました

家庭ごみや事業ごみなどの廃棄物収集運搬・処理等を行う宮城衛生環境公社。会社にお邪魔して、まず目に留まったのはピカピカに磨き上げられた収集車。汚れやすいからこそ、毎日の洗車を徹底しているそう。砂金英輝社長は「廃棄物を扱う企業として、地域の衛生環境を守ることを大切にしています。ごみ減量やリサイクルに取り組みという会社の意志を表

市、市民団体、事業者団体で組織する「仙台市環境配慮事業者認定委員会」では、ごみ減量等の環境配慮に取り組む事業者を「エコにこマイスター」として認定しています。このうち特に積極的に取り組んでいる「エコにこゴールドマイスター」として、昨年7月に認定された株式会社宮城衛生環境公社を訪問しました。

できることから実践する

宮城衛生環境公社では、社名にちなみ「M・E・K」を頭に使った標語を社内公募により決めていきます。今年の標語として選ばれたのは「まだまだやるMEK(僕ら)なら ecoから始めるSDGs 環境公社の名にかけて」。さらなる高みを目指す、強い意志を感じる標語です。熊谷悟志さんは「ごみ収集中に、地域の方から分別の質問を受けることがあります。的確に答えて、リサイクルを促したい」、朝田直樹さんも「私たちの仕事は、社会になくてはならないものだと思います。若い世代にも、もっと環境に関心を持

誇りと使命感を胸に

明するため、ゴールドマイスターの認定を目指しました」と話します。櫻井泰文さんはその取り組みについて「車両数が多いので、CO2削減に向けたエコドライブ研修を定期的に行っています。全社員にエコバッグとマイボトルを支給しているほか、社内の掲示板で環境配慮の必要性などを共有し、意識の向上を図っています」と教えてくれます。最初は何をしたら良いかという戸惑いもあったようですが、今ではそれぞれができるを見つけて、実践されているそう。「総務の立場で何ができるかを考え、事務用品には環境に配慮したグリーン購入法適合品等を積極的に選んでいます」と森合和子さん。皆さんのアイデアが多様な取り組みにつながっているんですね。

持続可能な社会を目指して

地球温暖化が喫緊の課題となる中、企業による環境配慮の取り組みは不可欠です。従業員一人一人がその必要性を理解し、行動するという積み重ねが大切だと感じます。そのことが、企業価値やまちの品格をも向上させ、持続的な都市の成長にもつながるのではないのでしょうか。美しい「杜の都」を守り、未来へ確実につないでいくため、脱炭素・資源循環都市づくりに向けた取り組みを、本市としても一層推進してまいります。

団体紹介

株式会社宮城衛生環境公社  
<https://www.miyagi-ek.co.jp/>



▲左から櫻井さん、朝田さん、砂金社長、市長、森合さん、熊谷さん

※エコにこマイスター制度の詳細は市ホームページをご覧ください

